



わたしたちの 日本一 美しい村

2015

広報

しらかわ

10月号
No.531

「毎日事故のないように」 親子ぞうさんパレード開催



CONTENTS

- 第3回白山白川郷ウルトラマラソンの開催結果について… 2・3
- 柿じいの遺産学セミナー報告 …………… 4
- 白川遺産ツアーわれらが巡る本物の白川村 …… 5
- 地域おこし協力隊からこんにちは …… 6・7
- すこやかだより …………… 8

秋の全国交通安全期間中の9月28日(月)、平瀬保育園親子ぞうさんクラブによるパレードが開催されました。平瀬保育園から小坂建設前広場まで、大きな声で交通安全を呼びかけました。

第3回

白山白川郷ウルトラマラソンの開催

ご協力・ご声援ありがとうございました



9月13日に白川村と白山を結ぶ白山白川郷ホワイトロードを舞台に、総勢1,741名（出走者数）のランナーが過酷なコースに挑みました。村民を始めとする、約230名のボランティアの皆さんにより、エイド、おもてなしブース、ゴール対応など、それぞれの立場で大会を盛り上げていただきました。



今年度は、おもてなしエイドとして白川郷平瀬温泉飛騨牛すったて鍋を始め、ホットドッグ、飛騨牛乳コーンスープ、おからドーナツ、飛騨牛乳を提供しました。数も多めに準備しましたが、品切れになってしまいうエイドもあり、大盛況でした。



50kmメートルのゴール地点では、白川郷学園の児童、生徒にお出迎えのお手伝いをいただきました。50kmという長距離を一生懸命走って来るランナーを笑顔にさせていただきました。



3回目となる、ウルトラマラソンを無事に終えることができたのは、ボランティアの皆さんを始め、沿道から声援を送って下さった皆さんの協力があったことだと思います。

本当にありがとうございました。

■50kmの部

順位	種目名	No	氏名	記録	県名	所属クラブ名
50	50km男子	5496	松田 直樹	5:02:18	白川村	松田走連
100	50km男子	5502	手塚 洋平	5:30:31	白川村	洋梨クラブ
175	50km男子	5498	福地 達也	5:59:50	白川村	白川郷学園小P
195	50km男子	5492	堀 寿希也	6:11:25	白川村	金沢大学
230	50km男子	5347	成畑 晃希	6:23:51	白川村	金沢大学
241	50km男子	5490	松山 秀則	6:27:48	白川村	しらおぎ
290	50km男子	5499	野谷 信二	6:49:32	白川村	白川中PTA会長
382	50km男子	5510	上手 恵介	7:21:10	白川村	
431	50km男子	5509	今藤 大樹	7:40:53	白川村	
458	50km男子	5531	新井 良太	7:55:45	白川村	



飯舘村民白川郷ツアーが今年も開催されます！

今年も飯舘村の皆さまが、11月17日～11月20日の期間中に来村されます。このツアーは約4年前に起きた東日本大震災の復興支援として飯舘村民の皆さまの心を癒しおもてなしをすることを目的として一昨年度より行っています。昨年も多くの村民の皆さまにご協力いただきツアーを行いました。大変ありがとうございました。今年も村民の皆さまによるあたたかいおもてなしで、飯舘村の皆さまの心を癒せるようご協力をよろしくお願いします。

【大まかな日程】

11月17日(火)

午後：来村

夕方：役場にて歓迎式→トヨタ自然学校宿泊

11月18日(水)

終日：村内観光→トヨタ自然学校宿泊

11月19日(木)

午前：高山市内観光

夕方：ふじや旅館にて交流会・宿泊

11月20日(金)

午前：平瀬地区内にてお別れ会

夕方：帰村



9月16日(水) 19:00～ 総合文化交流施設

9月16日総合文化交流施設において、第5回柿じいの白川遺産学セミナーを開催しました。今回はⅠ部：林野制度と林業の展開について三重大学名誉教授 武笠俊一先生が解説され、Ⅱ部：白山信仰については早稲田大学名誉教授 柿崎京一先生が解説されましたのでご報告させていただきます。



Ⅰ 林野制度と林業の展開

近世飛騨の山村はすべて「地頭山」であって百姓の持ち山は無かった。明治新政府は「官民有区分」を行い、民有地を確定すると共に税収の確保を実施した。また官民区分の際、入会利用して事実上の民有地の約50%が官林にされたことにより、農民の反発・不満が生まれ、下戻し運動がはじまった。

明治30年、保安林設置を目指し森林法が制定された。本村でも部落有林の77%が保安林に編入された。公有地に強制的に編入されたことにより、山村民の強い不満が生まれ、公有地への引き戻しを願い出ているがすべて却下されている。これにより長期にわたる行政訴訟が始まることになった。結果として、訴訟の一部取り下げをすることにより、不要存置国有林の特売が実現し、払い下げが実現することになる。白川村では飛州木材(株)と契約を結び、払い下げ事務を全て任せ、特売による払い下げが実現した。

大正5年、区長会と村会による整理統一の原案と覚書が以下の様に作成された。

覚書

- ・区有財産は全て村有にする。
- ・山林は村の経営に要する部分以外は区民の経営にゆだねる。
- ・田畑等は使用収益者に永小作権を与える。
- ・秣場・萱場は区民の入会とする。

具体的な分割比率や区の経営条件などは不確実な、実施困難なもの

- ・郡役所の厳しい点検と大枠決定 → すべて村有に移管し一部は特売を行う。
- ・大正13年の帰結 → 特売地は40%を確保

各戸に分割した土地は整理・統一事業から除外された。

大正13年、以下のように林有を特売地の実績が出ている。

村有地総反別－①	処分外存置－②	特売反別－③
17,123町歩	9,855町歩	7,270町歩 (①＝②＋③)

Ⅱ 白山信仰について(その2)

今回は、『養老元(717)年、僧泰澄が開山した信仰(菊理姫)』の影響があることを勉強した。

次回告知

10月21日(水) 19:00～21:00 総合文化交流施設にて第6回柿じいの白川遺産学セミナーを開講します。皆様お誘いあわせの上多数ご参加下さいますようお願い申し上げます。

内容：Ⅰ部 耕地整備と農業・副業の動向

Ⅱ部 白山信仰について(その3)

白川遺産ツアー われらが巡る本物の白川村「日本文化の古層を探る」

日時 9月12日(土)
13:00~16:00

今年度は世界文化遺産登録20周年の記念すべき年となりました。この機会に白川村には世界遺産合掌集落だけでなく、様々な文化財・史跡があることを紹介する企画を行いました。今回は案内人に早稲田大学名誉教授 柿崎京一先生をお迎えし、白川村北部（鳩谷～小白川）を巡るツアーを行いましたので、ご報告させていただきます。

教育委員会事務局

今回は「日本文化の古層を探る」をテーマに、白川村に脈々と受け継がれてきた信仰や葬祭のルーツを巡りました。見学場所は以下のとおりとなっています。



1. 野焼き場(火葬場)跡地



2. 鳩谷八幡神社境内



3. 嘉念坊道場跡



4. 善俊上人茶毘跡



5. 積石塚群と大ケヤキ



6. 巨大磐座と結界

古代信仰の影響が色濃く残る神社様式、現在の墓の形とは異なり樹木信仰の影響が見られる積石塚、浄土真宗初期の布教の場となった道場跡など、白川村内にある日本文化の礎を実際に見て、学びました。

参加者からは、
「白川村は世界遺産白川郷というイメージがあるけど、そうではなく北部もとても面白く、勉強になった。」
「個人では行くことが出来ないような場所に行け、とても勉強になった。」
「話も楽しく、また白川村に来たいと思った。」
など、沢山の声を頂きました。

今後も白川村教育委員会では、文化財の保存・活用を考えていきたいと考えています。次回は10月3日(土)に白川村南部の近代化遺産を巡ります。白川村の魅力を沢山のの人に知って頂ければと思います。



岐阜県近代和風建築 総合調査 2次調査

この調査の目的は、岐阜県内の近代和風建築の全体像を把握する事、郷土を再発見し、ふるさとを愛する心を育む「ふるさと教育」の推進の2つを目的としています。

白川村では1次調査に12件が該当し、2次調査に残ったのは荻町にある木村家のみとなりました。実際に8月30日(土)に名古屋工業大学大学院教授 麓 和善先生と生徒4名、岐阜県教育委員会社会教育文化課2名により現地調査が行われました。

この木村家の歴史は、大正3年、当主の木村奥左衛門が飯島地区にあった合掌家屋を移築し、梁などに合掌造りの面影を残して商家風に立て直し、雑貨店を営んだのが始まりとされています。昭和7年には近代和風様式の書院座敷を増築しています。高い天井と漆喰壁が特徴の家屋で、重要伝統的建造物群保存地区の伝統的建造物にも指定されています。

今後も白川村文化財の価値が認められ保存・継承されていけば、白川村に対するふるさと愛も生まれるのではないかと考えています。



地域おこし協力隊からこんにちは!



柴原 孝治

どぶろく祭りの季節になりましたね。村へ来て2回目となる祭りです。

僕の住む平瀬集落でも先日、祭りが行われて参加しましたが、やっぱり白川村の一年は祭りで始まって、祭りで終わるというぐらいの盛り上がりでしたね。

ひよんな事から平瀬の祭り2日目に前職の元同僚達が村に遊びにきたので、少しばかり祭りを案内したのですが、そこで同僚達はとても感激していました。もちろん、都会に住む人達なので一年目の僕が感じた通り、祭りというものが珍しかった事もあります。何より、彼らの近くで見ている限り、サービス精神旺盛な村民の皆さんに感激していたのです。

後日、同僚からのコメントももらったのですが「地元の方に恐ろしい程飲まされましたが、みなフレンドリーで優しいのに感激!」もちろん、世界遺産、雄大な自然、白川村が誇るべき資源は沢山あるのですが、やっぱり人を惹きつけるのはそこに住まう人の魅力なのだと改めて感じた出来事でした。

最後に、取り組み始めて一年が経過しましたが、少しずつですが僕らを通して、村に移住される方が増えてきました。皆さんにとって、当たり前で見慣れた場所かもしれませんが、きちんと魅力を伝え、お手伝いすることでこの村を選んでくれる人達がいるということ。そして、昔からこの地で暮らしていた方達と必ずしも全て同じ方向を向けなくても、この地方創生の時代、数多ある地域の中から我々の住む白川村を最善と選んで移住してきてくれた移住者の方達をどうぞ温かい目で見て頂けると幸いです。

このままほっておけば、人口減少とともに民間及び行政サービスは縮小していくのは時間の問題です。将来、我々の子や孫達にとっても変わらぬ白川村であるよう、引き続き、足掻いていきたいと思っています。



梅本 もゆる

白川村に来て半年が経ちました。はや、と思いつつもまだ半年なのかも感じます。だいぶ白川風な言い回しも混ざるようになりました。私をご存知の方にはよく馴染んでいると褒めていただいたり、面識のあまりない方にも「あの声の大きい子」として認識されていたりして嬉しい限りです。

人ひとりと向き合うことが好きだと感じる私は、村でちゃんと暮らすということが合っているのかと思います。もともとは外に向けての発信業務を頼まれ4月に来ましたが、今後はそれよりも内向けに活動の場を広げようとしています。これから溶けこむように暮らしていきたい。皆さんいつもありがとうございます。一緒におしゃべりしましょうー!



大倉 暁

村に来て1年半、旧寺口家に住みだして約半年が過ぎました。雨戸を開けていると、多くの方が家に立ち寄り会話が始まり、その中で様々な意見をいただきます。合掌家屋や田や森の美しい景観を褒めていただく方も多いですが、店舗が立ち並んだり、都会のような人混みの風景にガッカリされて帰られる方もまた同じように多いです。

いつも暮らして感じる村の良さや素晴らしさが、伝わらないことを歯がゆく感じます。世界遺産やゆるキャラなど、レッテルやうわべだけの存在に頼らずに、村にある資源を正しく理解してもらえる仕組みを、本気で考える時期なのではないでしょうか。

微力ながら、今月からは、合掌家屋の「住み開き」の一環として、協力隊や村内にある書籍を閲覧できるライブラリースペースとしての開放を始めたいと思います。本や雑誌の他にも、昔の映像資料の上映会なども計画しています。日中時間が空いたときにでも、是非遊びに来てください。



高橋 淳

白川村にやってきて1年9カ月がたちました。季節もぐるとまわり2回目のどぶろく祭りです。先月の平瀬の祭りでは芸能大会で総合司会を務めさせていただきました。昨年も感じたのですが、村のみんなの祭りにかけるパワーは本当にすごい!今年もたくさんのパワーと笑顔、そしてお酒をありが

がとうございました!

地域おこし協力隊として活動していく中で、いまだに悩むのが「地域おこしとは?」です。この答えは協力隊の中でも違うし、その時々でも変わってくると思うのですが「その地に住む住民がその人らしく生活できること」なのだと感じるようになってきました。協力隊もけっしてヒーローではなく、その地に暮らす住民の1人です。私たちも含め、みんながその人なりに自分の生活を楽しむ。その楽しみがまわりの人に広がって、みんながその地で暮らすことに誇りをもてる。地域おこしとは上から押し付けられるものではなく、人それぞれが自分らしく生きることが結果として地域おこしと呼べるものになるのではないのでしょうか。皆様のおかげで私の白川村での生活は本当に充実したものとなっています。いつもありがとうございます!



前盛よもぎ

半年が経ち、「やりたいこと」視点で始めた業務から「やるべきこと」が少しずつ見えてきたかなと感じています。やっぱり、この地の住民として暮らして、村の方々と話をしたり、一緒に作業をしたり体を動かしたり、ご飯を食べたりしてみて分かることが、たくさんありました。

最近の私の活動内容は「農業」「Uターン」「高齢者サポート」というキーワードに絞られてきています。

「農業」でいうと、荒廃農地の再生・活用を、村外の方にも手伝ってもらいながら進めることで、村内の農業の振興や、村外の方に白川村の“人”や“自然”や“暮らし”の魅力を体感してもらえらる仕組みを作ること。

それから「Uターン」者の増加に繋がる子供達の居場所作り。石垣島に育つ中で、そして今白川村で暮らす中で感じるのが、村の人口増加に向けて移住者に来ていただく大前提として、Uターン者が増えていくことが村の幸せの1番大事なところだよな、という思いです。子供の頃に本気になって取り組んだ楽しかった経験や、大切に育てられた幸せな思い出、好きな場所や好きな人が地域にたくさん残っていることが、大人になって「あの頃のような暮らしを自分の子供にもさせたい」「村に恩返しをしたい」という選択肢が増えるきっかけになるのかなと思います。就職問題や利便性を考える以前に、その思いが太い根っこになるんじゃないかなと。

今取り組んでいるかやっこ劇団の活動が、その根っこ作りの一つになればと思っています。

そして最後に、「高齢者の幸せ環境」づくり。白川村の高齢者の方々はみんな元気いっぱいびっくりさせられますが、一人暮らしでなかなか外に出られず寂しい思いをしているお年寄りもいます。長年、人のお世話をしてくれてたおじいちゃんおばあちゃんが、お家で一人で寂しい思いをしているのは寂しすぎるなあという思いで、よくお家にお邪魔してお喋りをしたり一緒にご飯を作ったりしていますが、そういうささやかな幸せな時間を持てるお年寄りが増えるような、続いていく仕組みづくりをできたらなと思っています。生きがいづくりや、毎日が楽しくなるような場所・機会の提供など、高齢者にとっての幸せな地域環境を整えることを、もっとしていけたらな。

最後に、白川村の1番の魅力はこの土地の人たちだと思います。村に遊びに来た友達やお客さんを1番に連れて行きたい場所は、村内の観光地よりも、やっぱり合わせたい人がいる場所です。私がいま関わらせていただいている人は、村の中のほんの少しの方なのかもしれませんが、これからもっともっと色々な方々と関わらせてもらって、少しでも村の幸せな未来に繋がる働き方をさせてもらえればと思っています。皆さん、ぜひお気軽に電話でも直接でも、お声掛け頂けると幸いです。

地域おこし隊の活動はインターネットでも公開中!

☆地域おこし協力隊 隊員ブログ “白川村から、こんにちは。”
<http://vill-shirakawa-heritage-mgr.blogspot.jp/>

☆facebook Facebookページ 白川村地域おこし協力隊
<https://www.facebook.com/vill.shirakawa.heritage.mgr>

●問い合わせ・ご相談は 白川村役場 まで



福田麻衣子

白川村へ来た時、まだ雪が残っていたことを思い出します。

春が過ぎて、夏が過ぎて、秋が来て。そして間もなく雪の季節がやってくると思うと、時の流れの速さを実感します。

この半年は村の生活に慣れることに必死でしたが、たくさんの方に声をかけていただき、“この村に生きている”ことを感じられるようになりました。

仕事面でも、白川郷産品市や空き家活用や様々なイベントに関わらせていただき、たくさんの方とのコミュニケーションを通して、少しずつ白川村で自分ができることが増えてきたような気がしています。

10月から、現在空き家活用の一環として平瀬で改修中のシェアハウスに生活の拠点を移します。その名も“やまごや以上ほしぞら未満”。白川村にぴったりなネーミングだと気に入っています。

この小さな村の中で、鳩谷と平瀬、二つのふるさとができることに感謝しています。

改修工事には今後も多くの方に関わっていただき、それぞれに思い入れのある場所になればと考えています。まだまだ工事中!!!住みながらつくる変化し続ける家を目指したいので、興味のある方は是非一緒に改修工事をしましょう。

これからも宜しくお願いします。



石井直記

白川村へ来て半年が過ぎました。その間に何度か友人が村に米てくれています。友人たちは合掌集落や白水湖へと一緒に回れば当然興味を持ってそれらを見ます。しかし、印象に残っていることを聞くと、大抵はそこで出会った村の方々の話になります。人との触れ合いがその場所での楽しさ、印象深さを決めるとは常々思っていました、この半年で改めて実感しました。

現在、平瀬にてシェアハウスづくりのワークショップを開催し何名もの人が来てくれています。参加者の方々がどのように思っているかは分かりませんが、「あの人たちがやっているから行ってみよう」そんな風に思ってもらえるように、あるいはそのような関係を演出できるようになりたいです。

そして、私個人として最近着目していることは、「白川村で余っているもの」ものです。空き家もその一つです。所有者から見れば処分に困る空き家も移住希望者はそこに価値を見出す場合があります。

また、リサイクルハウスには古い木製の家具や雰囲気の良い生活雑貨が捨てられています。いらないと思う人がいる一方で、価値を感じる人がいます。余っているもの・いらないとされているものを価値を感じる人に届ける。それを自らの生業の一つにできないかと思っています。何でもかんでもという訳にはいきませんが、持て余している古い家具などお持ちの方がいましたら、一度、役場の地域おこし協力隊の石井までご連絡ください。